

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

言語部 研究主題

言葉のよさに気づき、親しみ、日常生活に生かす単元づくり

第6学年国語科学習指導案

単元名 プロジェクトBlog ～プロジェクト③表現の工夫Ⅱ～

学習材名 児童が書いたブログ
「〇〇ログ」

日時：令和7年2月21日(金)5校時
児童：江東区立第五大島小学校 第6学年1組 30名
担任：江東区立第五大島小学校 主幹教諭 前河 英臣
指導者：葛飾区立高砂小学校 主幹教諭 田中 裕美

1 単元の目標

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1)ク
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)ク	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ)	①進んで、読み手に伝わるように書き表し方を工夫し、今までの学習を生かしてブログの文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級の児童は、これまでに「読むこと」の単元においては、表現の工夫に着目して、中心人物の心情を捉えたり、表現の工夫の効果を考えたりする経験を重ねてきた。「書くこと」の単元においては、2学期から表現の工夫を意識して文章を書くという学習に計画的に取り組んできた。しかし、指導者の書いた文章のよさを感じ取り、構成や言葉、表現を工夫しながら文章を書くことができる児童がいる一方で、文字数や記号などの表面上の要素を変えることにとどまり、表現の工夫やその効果に意識を向けることができていない児童もいる。

11月からは、国語科の学習を中心として、自分が気になった言葉や心に残った言葉、新しく知った言葉など大切にしたい言葉を「言葉辞典」に書き残す取り組みを継続してきている。

本単元を行うにあたり、国語科や「書くこと」の学習に関する意識調査を行った。結果は以下のとおりであ

る。

(令和6年12月16日実施 28名 欠席2名)

質問	児童の回答	人数 (割合※小数第1位四捨五入)
①国語の学習は好きですか。 (選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	3名 (11%) 12名 (43%) 9名 (32%) 4名 (14%)
②文章を書くことは好きですか。(選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	6名 (21%) 8名 (29%) 8名 (29%) 6名 (21%)
③文章を書くことは得意ですか。(選択式)	・得意 ・どちらかといえば得意 ・どちらかといえば得意ではない ・得意ではない	8名 (29%) 7名 (25%) 7名 (25%) 6名 (21%)
④文章を書くときに気を付けていることは何ですか。 (自由記述)	・読み手に分かりやすく、具体的に書くこと ・比喻などの表現の工夫を使うこと ・段落始めに1マス空けること ・句読点などを付けて文章が続かないようにすること ・意見と事実を区別するため、文末表現に気を付けること その他各1名 ・伝えたいことを強調して書き、メリットデメリットを書くこと ・言葉を調べて分かりやすくすること ・違和感のないように敬語などを使うこと ・主語と述語を入れること ・文末を敬体、常体で統一して書くこと ・間違えないように書くこと	5名 3名 3名 2名 2名
⑤文章を書くときに、困ることや難しいことはありますか。 (選択式)	・ある ・ない	16名 (57%) 12名 (43%)
⑥文章を書くときに、困ることや難しいことは何ですか。 (自由記述)	・どのように書こうか、構想が浮かばないこと ・雰囲気を表すのに適切な表現が見付からないこと ・文章が複雑になること ・内容を要約すること その他各1名 ・自分の経験と結び付けて書くこと ・簡潔にしすぎて字数が規定数より足りなくなること ・どのタイミングで段落分けをすればよいのか迷ってしまうこと	4名 3名 3名 2名

意識調査の結果を見ると、国語の学習を肯定的に捉えている児童が54%と、そうではない児童が46%であり、国語の学習に対する捉えが二極化していることが分かる。文章を書くことに対しても、同様の結果となっている。

④の「文章を書くときに気を付けていることは何ですか」に対しては、「読み手に分かりやすく、具体的に書くこと」と答えた児童が5名と最も多く、次に「比喻や表現の工夫を使うこと」が3名だった。相手や目的を意識したこれまでの学習が積み重なっている成果と言える。一方で、「間違えないように書く」「段落始めに1マス空ける」等、文章を書く際の基本にとどまっている実態がある。

⑥の「文章を書くときに、困ることや難しいことはありますか」の自由記述では、「どのように書こうか、構想が浮かばない」と答えた児童が4名で、次に「雰囲気を表すのに適切な表現が見付からない」が3名だった。

以上のような結果から、児童はこれまでの学習を生かし、相手や目的を意識して書こうとしていることが分かる。しかし、書きたい内容はあるものの、どのように書き表せばよいのか悩んでいることや、伝えたいことがあるのに、その様子や思いをぴったり表す表現を見付けることに苦労していることがうかがえる。

本単元では、表現の工夫に着目し、読み手に伝えたいことをより適切に書き表すことができるようにしていく。意識的に表現の工夫を使って文章を書き表すことや、書いた文章を児童同士で相互評価していくことで、表現を工夫して書くと「自分が伝えたいことが伝わった」「読み手に楽しんで読んでもらった」と実感できるよ

うにする。本単元の学習を通して「次はこんな表現を使ってみよう」など、児童が書くことに対して前向きな思いをもつことができるようにしていきたい。

本単元で学んだことを、今後取り組む卒業文集に活用するだけでなく、日々の実生活の中でも活用しようという意識を高めていきたい。

(2) 学習材について（学習材観）

① ブログ（「〇〇ログ」）

ブログの正式名称は、「weblog(ウェブログ)」という造語である。「ウェブ」上に、「ログ(記録)」を残すという意味で、自分のもつ情報をインターネット上に発信するのに用いられるサービスのことである。発信する情報は、日常生活の様子や商品のPR等、多岐に渡り、文章の様式や字数、画像の有無も自由に決めて発信できるのが特徴である。

本単元におけるブログとは、主に学校での出来事や感じたことを、200字程度で書いた文章のことである。言葉や表現に着目しやすくするため、文章のみで画像は用いないことにした。200字程度という字数制限を設け、出来事や感じたことの中から特に伝えたい部分を焦点化したり、言葉や表現を吟味したりする必要性をもたせている。

また、定期的にブログを更新し、日頃から自分が経験したことを言葉や文章に表す活動を繰り返すことで、事実や思いを言語化する習慣を付けることを目指す。継続することにより、題材を見付ける力が育っていくと考える。学校行事などの学級で統一した題材から書き始め、休み時間や学校生活の中で印象的だった出来事などと徐々に題材を広げ、最終的には児童自身が題材を決定し、文章を書くことができるようにしていく。

児童が作成するブログは、児童それぞれの名前の始め2文字をとって、「〇〇ログ」と呼び、親しみをもつとともに、自分の思いが詰まったブログとなることを目指している。ブログの作成・読み合いについては、デジタルツールを活用した。作成した文章が時系列で保存されるため、自分の書いた文章がどのように変化してきたかを辿って確かめることができる。また、それぞれのブログは学級全員が閲覧することができるので、互いに読み合うことで、自分では思い付かなかった題材や構成、表現の工夫に気付いたり、「このブログの文章がいいな」「自分もまねしたい」という思いを抱いたりすることにつながる。読み合う際には、「いいね」ボタンやコメントなどのリアクションをし合うこととした。友達に読んでもらう楽しさを感じられるようにするとともに、「楽しんでもらうためにもっと工夫したい」という次の活動への意欲を高めることができると考えた。

② 題材

本単元ではまず、「持久走大会」のことを書いたブログの文章を読み合っ、文章のよさを話し合う。「持久走大会」という共通体験を題材にした文章であり、同じ出来事でありながら言葉や表現に違いがあるということに着目しやすくと考える。また、走っている感覚や体の動きに比喻を用いたり、自分の気持ちや周囲の様子が慣用表現や情景描写を用いたりして書きやすいため、表現の工夫に気付くことができると考える。

また、本時では、このブログの文章を基に出し合った表現の工夫を生かして、2月の「心が動いたこと」を書いたブログの文章を書き直す。1週間の学校生活の中で驚いたことやおもしろかったこと、悲しかったことなど、心が動いたことは、人に伝えたいと思いやすい題材であるため比較的取り組みやすくと考えた。また、書いたブログの中には、指導者によるブログの文章をまねたものや「プロジェクト②表現の工夫1」の単元で扱った表現の工夫が取り入れられた文章もあるが、まだ出来事の羅列や感想文のような文章も多く、読み手に様子や気持ちを伝えるために表現の工夫を取り入れて書き直すのに適していると考えた。

③ 表現の工夫

年間を通して着目させたいと考える表現の工夫は、以下のとおりである。

表現の工夫		学年
1	会話、心内語	1・2年生
2	オノマトペ（音や様子を表す言葉）	
3	比喻・直喩（例：ビー玉みたいな・ゼリーのよう）	
4	慣用表現（例：ねこの手も借りたい）	3・4年生
5	呼び掛け（例：～を知っていますか）	
6	対比	5・6年生
7	反復	
8	体言止め、倒置	
9	比喻Ⅱ暗喩（例：落ち葉のメロディーを聞きながら…進む）	
10	情景描写（例：小さなつむじ風が起きた）	

「読むこと」の学習の中で出合う表現や、「書くこと」において活用させたい表現を基に整理した。本単元

では、オノマトペや比喩に加えて慣用表現や反復、情景描写に着目し、文章の中で使用する児童が現れることを期待する。

児童が様々な表現の工夫に気付くことができるよう、10月から指導者によるブログ（「指導者ブログ」）投稿を開始した。上記の表にあるような表現の工夫を意図的に取り入れ、児童がその工夫に気付いたりブログの文章を書く際に参考にしたりとできるようにした。また、児童が書いたブログの文章にそれらの工夫がある場合には、積極的に取り上げ価値付けるようにする。

④「言葉カード」「言葉辞典」

「言葉カード」は、児童が気になった言葉や心に残った言葉、新しく知った言葉を書き溜めていくカードである。見付けた「言葉」「意味」「どこでその言葉と出合ったのか」「文例」などを記録している。「言葉辞典」は、「言葉カード」を二つ穴のどじ具で留めてノート形式にしたものである。国語科の学習の中だけでなく他教科や日常生活の中で見付けた言葉も書くようにし、自分だけの「言葉辞典」作りを目指す。継続する中で「言葉辞典」に書き溜めた言葉を使って文章を書いたり話したりするなど、集めた言葉を表現に活用することも目指している。「言葉辞典」の取り組みを通して、日常生活の中で言葉を意識する習慣を育てるとともに、児童の語彙を豊かにできると考えた。



本単元においても、ブログの文章を書くときに「言葉辞典」にある言葉を活用できるよう促していく。

(3) 単元について（単元観）

本単元は、ブログの文章を書くことを通して、表現の工夫の効果に気付き、表現の工夫を意識して使おうとすることをねらいとした単元である。

本単元における「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉や表現に着目し、意味や効果を比較して、自分の思いがより伝わるような適切な表現を選択して文章を書こうとすること」と捉えた。学習を通して、「言葉による見方・考え方」を働かせることで、自分の思いがより読み手に伝わるようになることを児童が実感できるようにしていきたい。

①帯単元における本単元の位置付け

本学級では、読み手を意識しながら言葉や表現にこだわって文章を書く力を高めていけるよう、「プロジェクト Blog」という帯単元に取り組む。表現の工夫を意識して学校生活の出来事をブログとして書き溜めていくことで、徐々に「工夫が使えるようになった」「文章を書くのが楽しくなった」「みんなにも分かりやすく伝えたい」という思いが生まれることを想定しながら、以下に示す5つの段階（まとめ）で取り組む。

プロジェクト Blog（全15時間）					
時期	11月	12月	1月	2月（本単元）	3月
小単元名（時数）	「〇〇ログ」を書いてみよう（全1時間）	プロジェクト① 表現の工夫Ⅰ（全4時間）	プロジェクト② 構成（全3時間）	プロジェクト③ 表現の工夫Ⅱ（全4時間）	プロジェクト④ 文体（全3時間）
学習活動	出来事を思い出して書く。友達と読み合う。楽しさを知る。	表現の工夫を使って、文章を書く。	構成を工夫して、文章を書く。	表現の工夫を使って、文章を書く。	題材や文体を工夫して、文章を書く。
常時活動	「〇〇ログ」10月～ 「言葉辞典」11月～				

帯単元の学習を支えているのは、常時活動の「〇〇ログ」と「言葉辞典」の取り組みである。常時活動と小単元とを往還しながら学習を進め、伝えたいことを言葉や表現を選んで書こうとする態度を育てていく。

常時活動	取り組みの意図
「〇〇ログ」	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の授業、宿題、朝学習にあたる時間（学びタイム）を主に活用し、学校の出来事をブログという形で文章にする。 ・「〇〇ログ」を定期的を書くことで、文章を書く際の題材を自分で見付けられるようにする。 ・「〇〇ログ」を友達と読み合うことで、友達の文章から工夫を見付けて活用したり、自分の文章のよさに気付いたりできるようにする。また、読み手を意識して文章を書く習慣を付ける。
「言葉カード」 ↓ 「言葉辞典」	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科や他教科の学習、日常生活の中で見付けた印象的な言葉や使ってみたい言葉を「言葉カード」に書き溜めるようにすることで、言葉を意識して生活する習慣を付けるとともに、児童の語彙を豊かにする。 ・「言葉辞典」を見返すことで、自分の集めた言葉を振り返り、気に入った表現を選ん

だり使用してみたい言葉を選んだりする。
・「言葉辞典」に書き溜めた言葉を使って文章を書いたり話したりするなど、集めた言葉を表現に活用する。

本単元は4つめの段階（まとめ）に位置する小単元である。2つめ（プロジェクト①）の段階で、児童が書いた人気ブログの文章には様々な工夫があることに気付く、その中の1つである表現の工夫の役割や効果について考え、それらを使って文章を書く意識を高めてきた。今回は、2つめ（プロジェクト①）で気付かなかった表現の工夫や複数の表現の工夫を使うことを意識させることで、より自分の思いの伝わる文章を書くことを目的とした学習である。

本単元終了後、読み手を意識しながら、自分が伝えたいことに合った言葉や表現を探して文章を書こうとする姿を期待する。

②単元構成

単元全体を「出合う」「親しむ」「生かす」の三つの段階で構成した。

【出合う】 これまでに書いたブログの文章を読み合い、気に入ったブログを出し合う。

【親しむ】 人気のあった「ブログ」を読み比べ、表現の工夫を見付ける。

【生かす】 自分が使いたい表現の工夫を用いて、以前書いたブログを書き直す。

新しくブログや文章を書くときに、表現の工夫を活用する。

「出合う」段階では、これまでに書いたブログの文章を読み合い、気に入ったものを出し合う。友達のプログを読んだり気に入ったものを紹介し合ったりすることを通して、「使える表現の工夫を増やして、人気ブロガーになろう（仮）」という単元の学習課題を立てる。人気ブログの秘訣を自分のブログに取り入れ、プログの文章をよりよいものにするという単元の見通しをもつ。

「親しむ」段階では、学級の児童が選んだ「人気ブログ」の秘訣を探る。選ばれた数点の「人気ブログ」を読んで、共通点やそのブログならではのよさを見付け、共有し合う。人気の理由は、題材や構成、表現の工夫など多岐にわたると考えるが、本単元では特に、表現の工夫の効果に着目し、文章に取り入れられるように学習を進めていく。

「生かす」段階では、「出合う」「親しむ」段階で見付けた表現の工夫を使って、「心が動いた」ことを書いたブログの文章を書き直す。表現の工夫を使うときには、辞書や「言葉辞典」、教科書の巻末にある「言葉の宝箱」を活用するよう促し、自分が表現したいことによりぴったりの言葉を吟味できるようにする。表現の工夫を使うことで、読み手に様子や思いがより伝わることの楽しさや達成感を味わえるようにする。最後に、書き直す前と後を比べて読んだり、友達と読み合って感想を伝え合ったりすることで、自分の文章のよさに気付く、「次も表現の工夫を使ってブログを書きたい」「他の表現の工夫も使ってみよう」という思いを高め、今後の活動へつなげられるようにする。

また、本単元で学んだ工夫をブログ以外の文章にも生かして書いたり、表現の工夫に着目して読み手の意図を考えながら文章を読んだりするなど、豊かな言語生活へとつながることを期待したい。

4 言語部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

言語部では「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉に着目し、意味や役割、効果を考え、意識して使おうとすること」であると考えられる。

児童が、自分の思いを表現したり情報を基に自分の考えを形成したりしようとする際に、言葉の意味や効果に着目し（言葉による見方）、比較や類推等の概念的思考を働かせて考え（言葉による考え方）、より適切に判断しようとしている姿が、「言葉による見方・考え方を働かせる」姿である。さらに、「言葉による見方・考え方を働かせたことを振り返り、「言葉のよさ（役割や効果）」を実感することで、言葉への自覚を高めることができる。これらの経験を重ねていくことで、児童の語彙を豊かにし、豊かな言語生活者が育っていくのだと考える。

「書くこと」の学習では、様々な言葉や表現に着目し（言葉による見方）、比較したり類推したりして（言葉による考え方）、自分の思いや伝えたい内容に適切な言葉や表現を選択しようとする姿が、「言葉による見方・考え方を働かせる」ことであると考えられる。それぞれの学習過程の中で、どの言葉や表現がより適切なのかを比較し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して最適なものはどれかを考え判断しようとする際に、「言葉による見方・考え方を働かせる」のである。

「言葉による見方」は、知識及び技能の内容の（1）言葉の特徴や使い方に関する事項から、「語彙」「表現の技法」「文や文章」を取り上げた。「言葉による考え方」は、知識及び技能の内容の（2）情報の扱い方に関する事項の「情報と情報との関係」「情報の整理」や先行研究を参考に概念的思考を設定した。

		低学年	中学年	高学年
言葉による見方	語彙	身近なことを表す語句	様子や行動、気持ちや性格を表す語句	思考に関わる語句
	表現の技法	(比喩・反復などの表現の工夫)	(比喩・反復などの表現の工夫)	比喩・反復などの表現の工夫
	文や文章	主語と述語との関係	主語と述語との関係 修飾と被修飾との関係 指示する語句と接続する語句の役割 段落の役割	語句の係り方や語順 文と文の接続の関係 話や文章の構成や展開 話や文章の種類とその特徴
言葉による考え方	概念的思考		-----	分解 抽象化 具体化 系統化 一般化 →
		-----	因果 分類	→
		----- 比較 類推 -----		→

どの言葉や表現がより適切なのかを比較する際には、語句を理解するための方策「①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化」を使って考える。その際、友達とどのような言葉や表現があるかを出し合ったり、それぞれの言葉や表現からどのような印象を受けるかを話し合ったりすることが欠かせない。他者と協働することにより、「新たな言葉との出会い」や「言葉の意味や役割、効果」「人による感じ方の違い」等に気づき、言葉への理解を広げたり深めたりすることができるのである。学習の中でこれらの経験を重ねることで、児童の言語感覚を耕し、語彙を豊かにしていく。このような学習を継続することが、豊かな言語生活の実現につながる。と考えた。

言語部では「豊かな言語生活」について、三つの側面から捉えている。

ア：言葉そのものへの興味・関心

言葉を意識し、言葉に関心をもって生活し、言葉に親しんでいる。

- ・言葉の並びやリズム、韻や言い回しのおもしろさや心地よさを楽しんでいる。
- ・言葉遊びや短歌・俳句、伝統的な言語文化などを楽しんでいる。
- ・言葉に出合ったとき、「おもしろいな」「かっこいいな」「すてきだな」などの思いをもって生活している。
- ・気になる言葉に出合った際、意味や使い方を調べたり、いつか使ってみようと思ったり書き留めたりしている。
- ・その言葉の仲間が他にもないかと調べたり集めたりしている。

イ：自己内対話

自分の思いを言葉にすることにより意識化し、感性や情緒、思考を活性化したり明確化したりしながら内言を充実させている。

- ・言葉を用いて論理的に思考し、自分の考えを広げたり整理したりしている。
- ・自分の中にある漠然とした思いを言語化することで感情を明確にしたり豊かにしたりしている。
- ・書いたり話したりする際に、自分なりのこだわりをもって言葉や表現を選択し、使おうとしている。

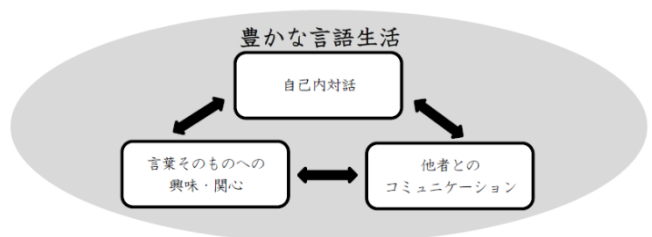
ウ：他者とのコミュニケーション

言葉の働きを意識して、思いや考えを他者とよりよく伝え合おうとしている。

- ・発表や話し合い、交渉などで、考えを伝え合い、理解を深めたり問題を解決したりしている。
- ・他者と関わり合う際に、言葉から相手の思いを理解し、円滑なコミュニケーションを取っている。
- ・言葉には人間関係を構築する働きがあることを意識し、言葉を介して他者と良好な人間関係を築いていこうとしている。

これらの三つの側面は、互いに関連し合っている。「Aという言葉があるんだ。おもしろいな」という「言葉そのものへの興味・関心」の側面が、「このことを書くときにあのAという言葉を使ってみようかな」という「自己内対話」の側面につながり、「〇〇さんにこのことを伝えるためには、あのAという言葉を使うのはどうかな」という「他者とのコミュニケーション」の側面にもつながる。

このように、それぞれの側面を行きつ戻りつしながら



ら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていく。他者とつながり、関わり合いながら、自分で考え、意思決定し、社会の一員として生きていくためには、言葉が不可欠である。言葉に親しんだり「言葉による見方・考え方」を働かせたりする経験を重ね、児童の語彙を充実させていく学習を継続することが、児童の言語生活の充実につながる。そして、言語生活が充実することで豊かな言語生活者が育っていくのだと考える。

5 研究主題に迫るために

本単元において、児童が「身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」とは、「文章の中で一番伝えたい箇所を決めて使いたい表現の工夫を選択し、方法や相手を自分で選択しながら言葉や表現を集めたり表現の効果を比較したりして、よりびったりな文章にしていこうと試行錯誤する姿」である。

「児童が身に付けたい力を意識する」とは、児童一人一人が自分の書いた文章の中で「より詳しく伝えたい箇所やそのために使いたい表現の工夫を意識する」ことである。「自ら学びを進める」とは、伝えたい部分をよりびったり表現するために、「言葉や表現を集める方法や対話の相手を自分自身で選択し、表現の効果を比較検討し、びったりなものを選択しようとする」ことである。

そのため、児童が表現の工夫の効果に気付いたり自分の書いた文章を自然と書き直したくなったりするよう単元構成を工夫し、自分の課題意識をもつことができるようにした。

本単元終了後も、帯単元として継続して取り組んでいくことで、「児童が身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」力が次第に高まっていくと考える。

研究主題に迫るために、【出合う】【親しむ】【生かす】の三段階の単元構成とし、学習活動や手だてを工夫する。

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

本単元における「児童が身に付けたい力を意識する」姿とは、一人一人が自分の書いた文章の中で「より詳しく伝えたい」箇所を見付け、「詳しく伝えるために表現を工夫したい」「他により表現はないか探したい」「どちらがより伝わるか確かめたい」などの思いをもって個人の学習課題を設定している姿である。

また「主体的に学習に取り組む」姿とは、「～したい」という思いをもって学習に取り組もうとしている姿である。「自分の学習課題を解決するために方法や対話の相手などを自分で選択しながら学習を進め、よりびったりな表現を探したり選択したりする」「毎時間の振り返りの中で『今回は～だったので、次は○○してみよう』と次時の学習課題を設定する」「単元全体を振り返り『次は、これまで使えなかった表現を使いたい』『もっと読み手に伝わる文章を書きたい』という思いをもつ」など、児童が自分で「～したい」と考え、学習を進めていく姿を想定している。

本学級の児童は、日頃から学習方法や形態を選択する経験をしてきているが、個人の課題を設定して学習に取り組む経験は少ない。本単元では、学習活動を通して一人一人が自分の課題意識をもって個人の課題を設定し、これまでの学習経験を生かしながら自分で考えて学習を進める姿を目指したい。

①【出合う】：「持久走大会」について書いたブログの文章を読み合い、感じたことを出し合って単元の学習課題を設定する。

出合う段階では、児童の「より伝わる文章を書けるようにしたい」という思いを高めるようにする。児童同士で作品を読み合い、気に入ったブログを選んだり選んだ理由を出し合ったりする中で「自分のブログの文章をよりよくしたい」という思いを醸成していく。

第1時では、共通題材「持久走大会」について書いたブログの文章を読み合い、気に入ったものを一人三つ選ぶ活動を設定する。選んだ理由や感じたことを出し合う中で、「どうしておもしろいのだろう」「なぜ人気があるのだろう」などの問いをもつことができるようにする。それらを基に単元の学習課題を設定する。本単元以降も作品を読み合ったり選んだりする活動を定期的に行っていくようにすることで、「次回は自分も選ばれたい」「もっと伝わる文章を書きたい」という思いをもち、主体的に学習に取り組むことができると考えた。

②【親しむ】：表現の工夫の効果に気づき、「心が動いたこと」について書いたブログの文章の中で自分が「より詳しく伝えたい」箇所や使ってみたい表現の工夫を見付ける。

親しむ段階では、表現の工夫の役割や効果について考え、児童が自分の「身に付けたい力を意識」して個人の学習課題を設定できるようにする。

第2時では、第1時で人気があったブログを改めて読み、それらのよさを考える中で、新たな表現の工夫があることに気付かせる。その際、慣用表現や情景描写など表現の工夫の種類を分類するだけでなく、「語句をより理解するための方策」を用いて、表現の工夫の役割や効果について考え、「表現を工夫することでより詳しく伝わる」ということに気付かせていく。その後、「心が動いたこと」について書いたブログの文章を読み返し、

工夫したくなったり書き足したくなったりなど自分が「より詳しく伝えたい」箇所を考え、自分の課題を設定する。

これらの活動を通して、「文章のこの部分を詳しくするために、〇〇という表現の工夫を使おう」という意識をもって学習に取り組むことができるようになることを考えた。

児童によっては、「詳しく伝えたい」よりも、「表現の工夫を使ってみよう」という思いを先にもつことも想定される。児童一人一人の思いを大切に学習課題を設定できるようにする。

③【生かす】：言葉や表現を集める方法や対話の相手を自分自身で選択し、表現の効果を比較検討し、適切なものを選択しようとする。

生かす段階では、自分が「身に付けたい力を意識」し、学習方法や形態、対話の相手を自分自身で選択して「主体的に学習に取り組む」中で、自分が「詳しく伝えたいこと」を伝えるための言葉や表現を探し、より適切なものを選択できるようにする。

第3時では、前時に考えた学習課題「～を詳しく伝えるために～したい」を確認し、言葉や表現を集めていく。辞書や「言葉辞典」を使う、以前読んだ「〇〇ログ」を読み返す、人に尋ねるなど、児童が自分で選択した方法で言葉や表現を集めていくようにする。「個人で」「友達と対話しながら」「必要に応じて友達に聞く」等、学習形態も選択できるようにし、自分で考えて「学びを進める」ことを目指す。

第3時の始まりに自分の学習課題を確認することで「身に付けたい力を意識」してその時間の学習に取り組むことができることを考えた。また、個人の学習課題一覧を作成して提示することで、誰がどのようなことに取り組んでいるのかが分かるようにし、児童が対話の相手を選ぶ際の参考にすることができるようにする。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

友達との対話を通して、表現の工夫の効果への気づきを広げたり新たな表現と出合ったりすることで、言葉や表現への見方を新たにし、「言葉による見方・考え方」を働かせてより適切な表現を選択しようとするができるようにする。また、読み合って相互評価によって、自分の文章のよさを実感したり友達の文章から新たな表現を知り表現の工夫の効果に気付いたりして、更なる課題意識をもつことができるようにする。

①【生かす】：友達と対話して表現の効果を比較検討し、適切なものを選択しようとする。

第3時では、まず、より詳しくしたいと選んだ部分を言い換える言葉や表現の工夫を複数集める。辞書や「言葉辞典」、今までのブログ、友達との協働など、自分以外の発想も取り入れて集め、新たな語彙の獲得につなげていく。また、その後、ふさわしいと思う言葉や表現についての意見を交流することで、言葉に対する感覚を高めたり、意味の理解を深めたりする。これらの活動を通して、自分の伝えたいことを明確にするとともに、「言葉による見方・考え方」を働かせてより適切に表している言葉や表現を自分で選択する。

②【生かす】：相互評価をすることで、自分の文章のよさや新たな課題意識、次の活動への意欲を高める。

第4時では、作品を読み合い「いいね」やコメントを送り合って相互評価をする。気付いた文章のよさをコメントし合うことで、「この慣用表現を使ったら様子が詳しく伝わった」「この情景描写で自分の気持ちを上手く表せた」など自分の文章のよさを実感したり「迷ったけれどこの表現にしてよかった」「表現の工夫をすると『いいね』がたくさんもらえるんだ」などと達成感を味わったりすることを目指す。友達の「ブログ」を読むことで「言葉辞典」に書き留めておきたい表現を見付けたり、「次は〇〇さんのような表現の工夫を使ってみよう」「〇〇さんみたいな文章を書いてみたい」など今後につながる新たな課題意識をもったりすることもできる。

読み合いと相互評価は、今後の常時活動の中でも継続して行う。「いいね」機能を活用し友達から肯定的な評価をもらうことで相手に伝わる文章を書けたことを実感し、次のブログを書くことへの動機付けになる。もっと「いいね」もらえるブログにするためには、どんなことが必要なのかを考えようと自己調整する姿が現れ、次の小単元の学びへとつながっていくことを期待する。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元の学習をその後の常時活動や日常生活に生かしている場面を具体的に想定し、児童が獲得した言葉の力を活用できているかどうかを見取り、今後の指導に反映することができるようにする。

【生かす】：単元終了後の日常生活において、学んだ書き方の工夫を意識し、実生活でも活用しようとする。
言語部が目指す豊かな言語生活とは、言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使い、よりよく人と関わったりしながら生活することである。（4で前述）

本単元で、児童は「表現の工夫を入れて書くと、様子や気持ちをより詳しく伝えることができる」ということや、「思いを言語化する際には、より伝わる表現があるかもしれないと考え、複数の候補を出してぴったりだと思うものを選ぶとよい」ことを学ぶ。

単元終了後には、以下の四つの姿が現れることを期待する。

ア：新しい語句や表現に興味をもち、その意味や使い方を知らうとしたり書き留めたりしている。

イ：自分が表したいことに合った語句や表現かどうか考えながら「ブログ」やその他の文章を書いている。

ウ：表現の工夫や効果に気を付け、人物の心情や場面の様子を想像しながら読んでいる。

エ：自分の表現が相手に伝わるかどうか考え、言葉を選んだり付け加えたりして書いたり話したりしている。

今後の学習や日常生活の中で、これらの姿が現れることが、本単元で獲得した言葉の力を活用していることである。これらの経験を重ね、語彙を豊かにしていくことが、児童の言語生活を豊かにしていくことであると考えられる。

6 単元計画（全4時間）

過程 (次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一 次 出 合 う	1	1 「持久走大会」のブログの文章を読み合う。 2 気に入ったものを一人三つ選んで、選んだ理由を書く。 3 選んだブログとその理由を出し合い、「人気ブログ」を決定する。 4 単元の学習課題を設定し、学習の計画を立てる。	○読み合うブログは、相互の作品を比較検討できるように、共通題材の「持久走大会」のブログとし、内容よりも、題材や構成、表現の工夫により着目できるようにする。 ○自分も、いろいろな工夫を使ってブログを書きたいという思いを高められるようにする。	
第二 次 親 し む	2	1 前時の「人気ブログ」を確認する。 2 「人気ブログ」から、新たな表現の工夫を見付ける。	○一人一台端末を用いて、自由に「人気ブログ」を読むことができるようにする。 【新たな表現の工夫】 ・慣用表現 ・反復 ・情景描写 ・比喩Ⅱ（暗喩）など 【語句を理解するための方策】 その語句の ①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化	【知識・技能①】 ワークシート ・ブログの文章から工夫を見付けて書いているかの確認

		<p>3 2月に書いた「心が動いたこと」のブログの文章を読み返し、自分の文章のどこを変えたいか、どの表現の工夫を使ってみたいか(個人の課題)を明らかにする。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>○見付けた工夫から、自分が文章を書き直す際に使ってみたい表現の工夫を選択することで、身に付けたい力を意識できるようにする。</p>	
第三次 生かす	3 本時	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあて(個人の課題)を確かめる。</p> <p>2 「心が動いたこと」のブログの文章を、表現の工夫を使って書き直す。 (1)表現の工夫を使って考えた文や言葉を書き出す。 (2)文や言葉から受ける印象を話し合う。 (3)自分がぴったりだと思う表現を選び、書き直す。</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>○身に付けたい力を意識できるようにする。</p> <p>○「人気ブログ」や「指導者ブログ」、「言葉辞典」を参考にしたり、辞書や一人一台端末を使って調べたりするよう助言する。</p> <p>○少人数のグループ(個人の課題が似ている、題材が同じなど)で複数回話し合わせる。さらに工夫できそうな表現があれば付け足してよいことを伝える。</p> <p>○集まった表現の中から、自分が伝えたいことにぴったりだと思う表現を選ぶよう声を掛ける。 ○書き直した児童には、読み返すよう伝える。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 ブログの文章 ・表現の工夫を使って、ブログの文章を書き直しているかの確認</p>
	4	<p>1 前時に直したブログの文章を、工夫を使う前と後で比べて読む。</p> <p>2 友達と読み合って感想を伝え合う。</p> <p>3 表現の工夫を使って文章を書くことのよさを出し合い、単元の学習を振り返る。</p>	<p>○表現の工夫に着目しながら自分や友達の工夫を使った文章を読んだり感想を伝えたりすることで、自分の文章のよさを見付けられるようにする。</p> <p>○自分の思いを伝える工夫や語句を理解するための方策を確認し、今後の学習でも使えるようにする。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ワークシート・観察 ・自分の思いが伝わるように工夫してブログの文章を書こうとしているかの確認</p>

7 本時の学習（3/4）

(1) 本時のねらい

自分が使いたい表現の工夫を使って、「〇〇ログ」の文章を書き直すことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法										
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあて（個人の課題）を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈表現の工夫〉</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">①会話、心内語</td> <td style="width: 50%;">⑥対比</td> </tr> <tr> <td>②オノマトペ</td> <td>⑦反復</td> </tr> <tr> <td>③比喩Ⅰ（直喩）</td> <td>⑧体現止め</td> </tr> <tr> <td>④慣用表現</td> <td>⑨比喩Ⅱ（暗喩）</td> </tr> <tr> <td>⑤呼び掛け</td> <td>⑩情景描写</td> </tr> </table> </div>	①会話、心内語	⑥対比	②オノマトペ	⑦反復	③比喩Ⅰ（直喩）	⑧体現止め	④慣用表現	⑨比喩Ⅱ（暗喩）	⑤呼び掛け	⑩情景描写	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>付けたい力を意識する場面</p> </div> <p>○自分が使いたい表現と、よりよくしたい文章の部分を明確にする。</p> <p>○個人の課題を一覧にして提示する。</p>	
①会話、心内語	⑥対比											
②オノマトペ	⑦反復											
③比喩Ⅰ（直喩）	⑧体現止め											
④慣用表現	⑨比喩Ⅱ（暗喩）											
⑤呼び掛け	⑩情景描写											
<p>様々な表現の工夫を使って、「〇〇ログ」の文章をレベルアップさせよう（仮）</p>												
<p>2 「心が動いた」ことについてのブログの文章を、表現の工夫を使って書き直す。</p> <p>(1)よりよくしたい部分に、表現の工夫を使って考えた文や言葉を書き出す。</p> <p>(2)出された文や言葉からどんな印象を受けるか、友達と話し合う。</p> <p>(3)自分がぴったりだと思う文や言葉を選び、その文や言葉を使って、文章を書き直す。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自ら学びを進める場面</p> </div> <p>○辞書や「言葉辞典」、教科書にある「言葉の宝箱」など、言葉や表現を探す学習方法や学習形態（個人または複数人、一緒に考える友達）を自由に選択させる。</p> <p>○文や言葉を書き出すことが難しい児童には、個人の課題の一覧を参考に友達に相談したり、以前のブログを見たりするよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>言葉による見方・考え方を働かせる場面</p> </div> <p>○少人数のグループ（個人の課題が似ている、題材が同じなど）で複数回話し合わせる。さらに工夫できそうな表現があれば付け足してよいことを伝える。</p> <p>○集まった文や言葉の中から、自分が伝えたいことにぴったりだと思う文や言葉を選ぶよう声を掛ける。</p> <p>○書き直した児童には、読み返すよう伝える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <p>・自分の文章について、工夫したい部分を明確にし、表現から受ける感じや表現の効果を考えながら、どの言葉が自分の文章に最も合うかを吟味している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〔思考・判断・表現①〕</p> <p style="text-align: center;">一人一台端末・ワークシート・観察</p> <p>・表現の工夫を使って、自分の文章を書き直しているかの確認</p> </div>										
<p>3 学習を振り返る。</p>	<p>○めあてに対する振り返りを書くように伝える。</p>											